

# 1)広義の文化性

## 1-1 外部侵攻

金を持つと気がでかくなり暴走し醜態が生まれる。自己の主要な産出と活動の習慣から外れた分野への安直な介入と粗末な表現を起し食い散らかしの破綻を招く。確立された自分野を構成する意識と態度が希薄化し力任せに外界に侵攻し生の荒れた病理を生む。

## 1-2 直接間接の因果、入手と支出

お笑い芸人が、妙に政治の話題を取り上げ、強く影響力を広げる情報技術を用い表現を作る姿は、あまりにお粗末な未熟性や自律性の欠落した幼児の心象が進む。妙な露出狂と知名度を向上し勢力拡大を求める破壊性に伝わる。分不相応な所得を入手し自己不在の受動性を表す。歪性に資金を提供する事業体の性格に問題性の認識が集まり、何をして財を得たか、入手の方法に思慮が投じられる。財の得方が使い方に反映される。略奪性によれば、力の活用も、歪な動機と手段に流れ財を集める性格を広げる。

## 1-3 標準観、影響責務、基準実施検証習慣

粗末な生の連鎖と拡大の基調について適正観を問い標準性を引き出し崩れた病理を予防する基準と運用の秩序と仕組が求められる。人形が度を越えた制御不能の表現や態度を招く事は許容されない。人形扱いされたくなければ、事前的に基準性を明示する事が最低限に必須となる。影響に相応しい態度を欠く姿は醜態感を増す。偏差値が高いからよいだろうでは通用しない。基準と実施と検証の習慣を有する成熟した大人の感覚と離れた子供の感覚を伺う。鮮明な基準性を整え明示する過程が要る。

## 1-4 あってはならぬ事、犯罪類型と体系

影響力に相応する責務性の著しく書いた表現は、権利性と義務性の不均衡を拡大させる。粗末な生命と人間を感じ取る現象と類型が整理される。犯罪とは何か、あってはならぬ事、の精査した基準と体系観を構成する。

## 1-5 原因と結果性

なぜ、歪性が生まれるか、成長過程の見識を引き出す創造性が深められる。結果と過程の因果をもって、過去の現象の調査性が起こると共に、あるべき概念性を集約し、静態と動態を合わせて標準観を導出する産出性に至る。

## 1-6 変わらぬ自然律

金を得て自己の本分を忘れて制御性の狂った病理を作るようでは過剰な資産性を削減させ正気と正常に回復させる作爲が進む。動静の適正を作る自然性の因果が滞りなく作用し変わらぬ生の良好性と健康性を存続する秩序性が回る。狂った自由性の制御が図られる。生命人間の一般原理性の見解に落ち着く。

## 1-7 不動と変動と動静

馬鹿が金を持つと使い方に適正が狂い負の因果を直接間接に作る。根本性の狂った二次三次の歪性を広げ深めることの対応が滞りなく出現し不動性を保つ動態性が作動し動静の適正を遂げる。不動と変動の相関として普遍的不変の真理性に定まる。

## 1-8 目的と方法、有効な力

知識も力の一要素になり、知識を悪用するのでは、過剰な力を与えたことの指導性や主導性、政治性、教育性に適正を欠く。生命観と人格性なる観点が起り、健全な力と運用を図ることの出来る質実を測定し実際と検証を含め生の適正を作る工程が生まれる。

## 1-9 拝金性、モラル破綻

金さえ貰えれば馬鹿にでも何でも力を与える拝金主義は生の根本と基礎の狂いを生じさせる。影響に相応する責務の欠落は破壊と利己性を拡大させる。この性質が領域の中枢に納まると歪性の連鎖に籠の利かない全体の性格を作る。モラル性の破綻した社会と自然と生態を招く。

## 1-10 製造と販売の分離、短期効果

製造と販売が分断し歪な流通による財の獲得を競う歪性に籠が効かず生の根本性の狂った生態を拡大させる。利己性の激しい社会性と人間性を失った虫けら気質を生む。やったもの勝ち、勝てば官軍、騙される者が悪い、生の破綻した慢性的な病理を生む。後先を考慮ことなく短期的な効果と財を求める。

## 1-11 基礎概念と二次三次の概念、見識概念知識政策技能

生命観の壊れた経済観や政治観、教育観と運用の姿が表面化する。この性格に長らくの信用は生まれない。一過性の利益追求と略奪性の質実を招く。「見識性、概念性、知識性、政策性、技能性、」という観点と相関を生む。

## 1-12 体系と周期と持続の集約観

並列的・羅列性の表現に対し抽象集約の概念を引き出し個々の現象と相関を配置し全体を簡潔に纏め表す作為を生む。抽象原理性と適用を図り意味内容の伝わる表現が進む。無用な労力を負荷せず自己の欲望と理解と納得と共感を求める態度が生まれる。生命観の導出と現象性を生む。

基準性と特定対象と評価性と分析、施策実施、検証改善、

根本且つ全体大局観の導出と個別特定現象の性格や配置を与える創造の大系観が整備される。生命人間像、生の良好な成長過程、結果性と過程性、静態性と動態性、性質と構造と局所現象、長期中期短期の因果と相関、

## 1-13 純粋性の原理と現況性と方法性

以上のような純粋原理性と標準観を前段に示し、現況性に対面し最良性を作る創造法則が作動する。純粋原理性の見解を省き制御性の利かない動態は過剰性と異常性を齎せる。広義の文化という観念と運用をもって健全な生が作動する。見識や概念の形成上に適正が有り動態を作る動静の習慣に、不動的な生命と領域性が現れる。

特定現象に、たまたま、お笑い芸人という限定を加えましたが、広く一般の観点から、「外部侵攻」という現象を問い適正を模索し作る創造性が進む。自分野性を作る発想や意識を先行し、生産と活動の基軸的な習慣性を生む。この性格が弱まり、外界の生や財に関心が増し観測と評価性を加えるような体質が進むと、あまり健全健康な生と主体性は歪化する。

自己不在性と受動性という性質が強まる。安直に外界に侵攻し略奪性を定常化した生の破綻性が起こる。盗みや詐欺、暴力性という事象にあたるか。外界への良好な栄養性を作る態度にあるか。健全性と不健全性の観点と評価性が生まれる。自他を含む利益性の概念を導出し、理念性や祈願性、抽象観念が形成される。同一性の集約観を作ると共に、自他の長短性という現況性を知り、自立と補完の相互性に思考と力が投じられて、自他の良好性と持続の体系と周期の再生産と持続の創造習慣を生む。自他の同一性という観点が弱まると、相対の力の強弱に偏った因果性が進み、個々人性と物理性の因果と効果性を求める歪性を広げる。

健全な感性を喪失し、思考と概念性の工程が減退し、身体性の因果に偏った生命観と実際性が作られる。弱肉強食と生存競争の強まる社会と世界の基調を常識性にした現象が生まれる。力をもって内外を支配従属させる感覚を常態した生と生態を生む。

過程性

結果性

体系と周期と持続

力：財力、権力、知力、技術力、人格性：自律と制御  
哲学と科学と技術の文化性、体系と習慣と持続性  
領域の健全性と持続性、生命と領域性

文化性：活動と習慣、性質

見識性、概念性、知識性、政策性、技能性

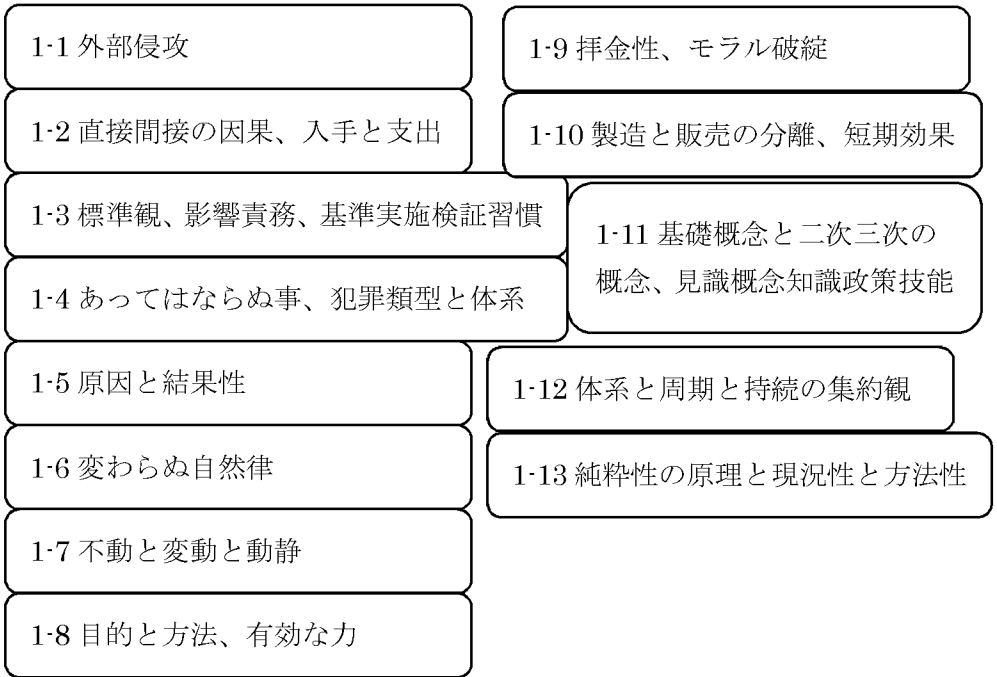
意図する領域観  
個別と特定と全体

生命観と人格性  
健全な動機、自律と制御

力：  
財力、権力、知力、技術力

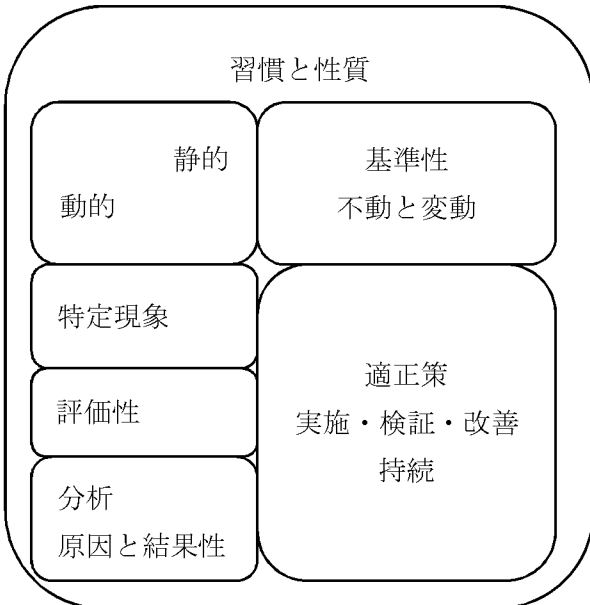
生命観：生滅性、感性と概念と精神と身体の相関と習慣

## 並列的表記

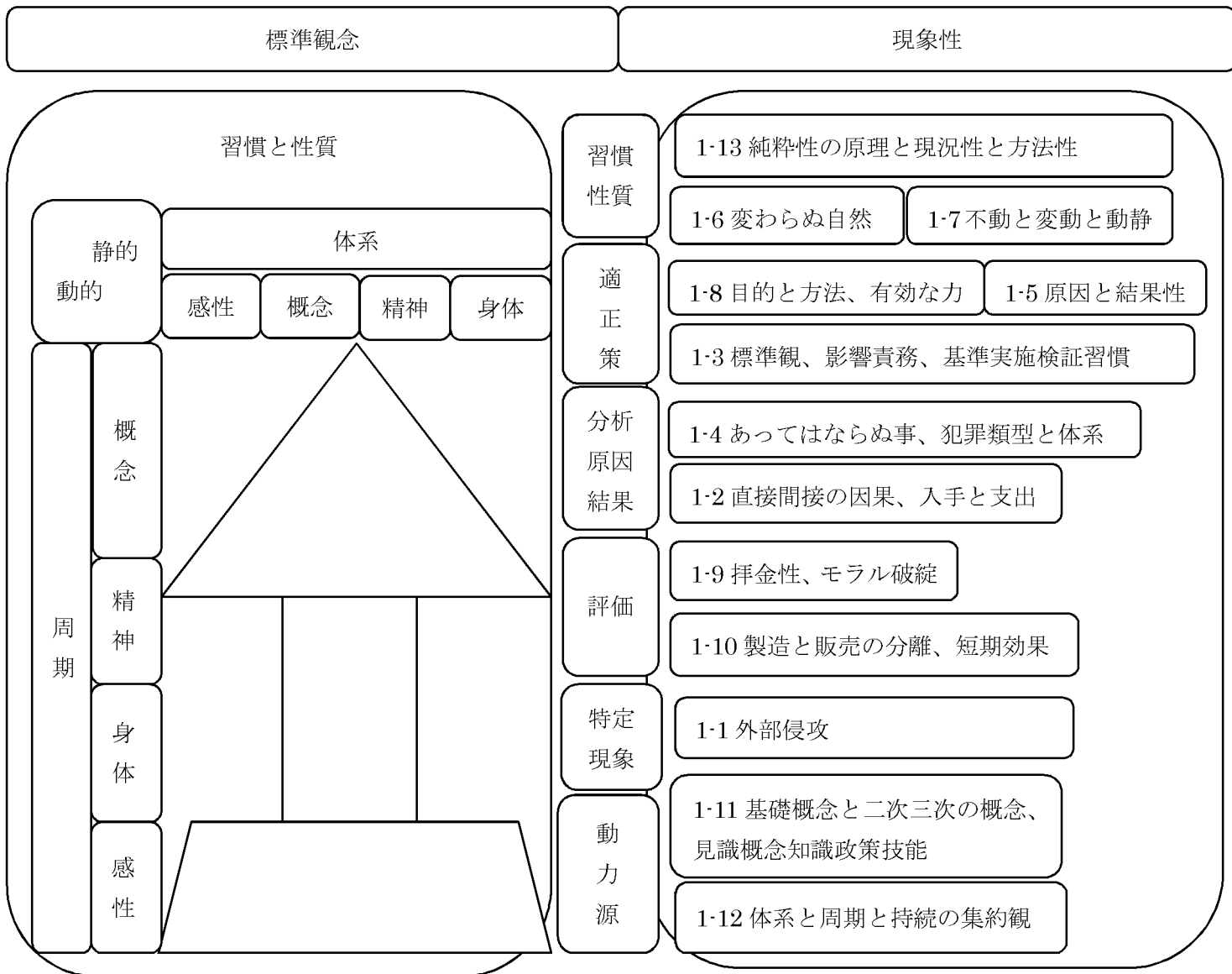


## 抽象原理性と立体的表記

### 習慣と性質



標準観念と現象性



広義の文化性

